

信濃毎日新聞

ルーツ

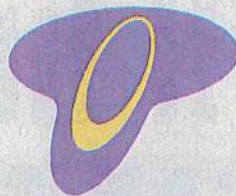
県内企業

TODAY

高見沢

長野市

建設資材販売、ガソリンスタンド経営、不動産事業。地域の「多角的総合企業」をうたう高見沢(長野市)の原点は、1923(大正12)年に下高井郡高丘村(現・中野市)に開業した米穀問屋だ。



TAKAMISAWA
高見沢

米穀問屋から多角的企業に

創業したのは、農家出身で10代半ばに行商を始めた高見沢茂助(1899~1981年)。コメのほか、木炭や肥料なども取り扱い、戦後間もなく始めたのが特産のリンゴだった。首都圏や関西地方向けに販売を伸ば

し、51年に株式会社高見沢商店を設けた。当時の貨物輸送は鉄道が主流。しかし、輸送予約が殺到し希望通りに送れなかった。「な

らば自分で」。茂助は運送会社を買収し、トラック輸送を始めた。今度はリンゴの輸送が収穫期に集中し、車両の稼働率を上げようと着目したのが建設用の砂利だった。60年に千曲川で採取を始め、63年に生コン製造会社を設立。マイカーの普及を見越し、ガソリンスタンド経営や自動車修理の会社もつくつ

た。会社名に変更し、関連会社を吸収合併したのは71年。本日も長野市緑町に移転した。コンクリート製品の製造販売などにも進出し、業績が拡大。90年代に中国・山東省で合弁会社を設立し、生コン製造を始めた。ただ、主力の建設資材事業の売上高は長野五輪前の96年6月期の209億円をピークに減少。環境分野やミネラルウォーターの製造販売に乗り出し、多角化を進めている。

会社の原点、「食」の分野もその一つ。93年に始めたなめ茸の製造販売に続き、昨年、チーズの輸入や加工品販売を始めた。茂助の孫で5代目の秀茂社長は「主力分野でリードしつつ、ルーツに立ち戻って事業を拡大していきたい」としている。

現社名に変更し、関連会社を

た。茂助の孫で5代目の秀茂社